

経営比較分析表（令和3年度決算）

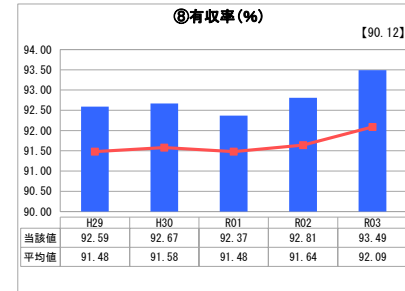
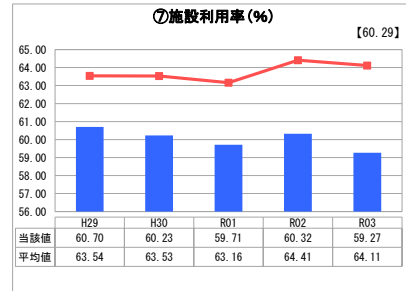
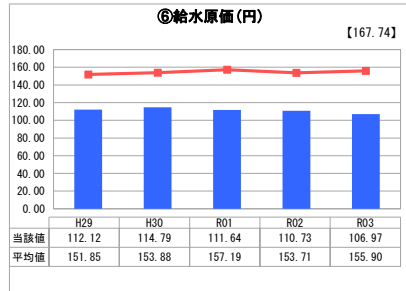
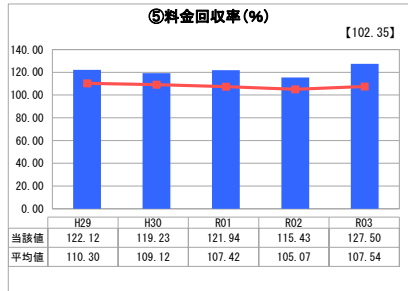
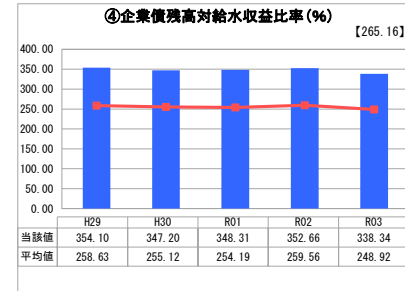
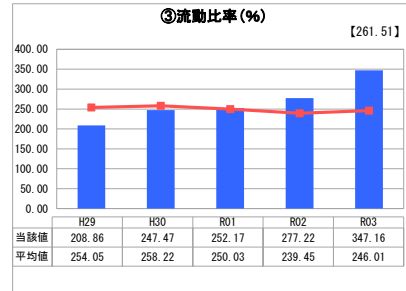
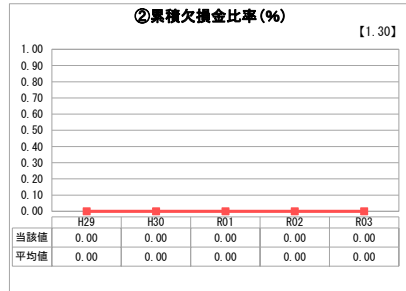
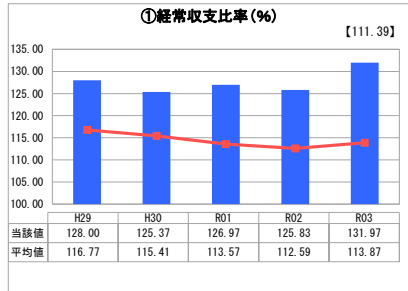
大阪府 枚方市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	72.63	99.99	2,290	

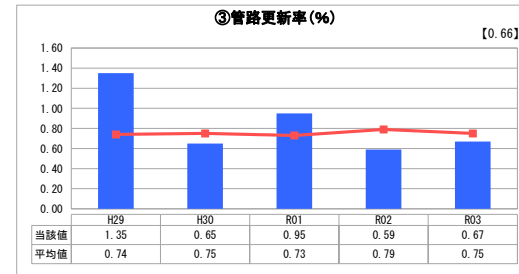
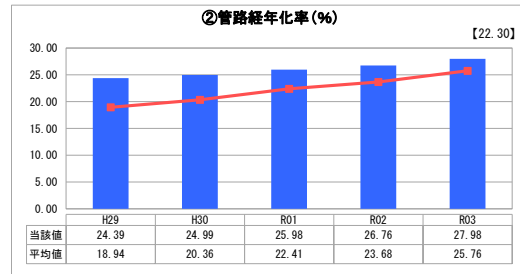
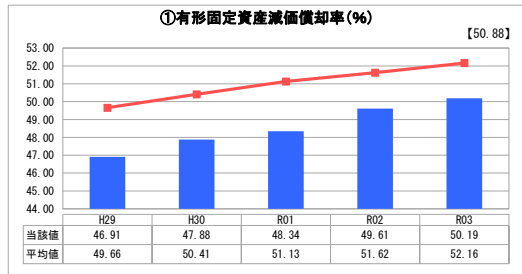
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
397,681	65.12	6,106.89
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
396,195	65.12	6,084.08

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営状況については、これまでから、給水人口の減少や節水機器の普及、大口利用者の地下水転換により、有収水量は減少傾向となっていました。令和3年度については、令和2年度に2ヶ月間の基本料金減免を実施したことや、令和3年4月からの水道料金の制度見直しなどにより、給水収益全体として増加となっており、「経常収支比率」は、100%を超える良好な状況で推移しています。

「流動比率」は、過去5年間で200%以上を維持しており、短期的な債務に対する支払能力は確保できています。

「企業債残高対給水収益比率」は、類似団体平均値より高くなっていますが、水道料金が類似団体と比べて低いことが原因です。

「料金回収率」は、100%を超えており、事業に必要な費用を給水収益でまかなえております。

以上のことから、経営の健全性や効率性としては、新型コロナウイルス感染症の影響があり、給水収益の予測がしにくいなど不確定要素はありますが、本決算においては、維持できているものと考えます。

2. 老朽化の状況について

中宮浄水場をはじめ、浄水施設・配水施設については、半数以上が開設後30年以上経過していますが、施設能力の低下を招くことのないよう、適切な維持管理を行っています。

特に、昭和40年竣工から50年以上経過した第一浄水施設は、安定した水の供給を継続するために、更新事業に着手しています。

また、「有形固定資産減価償却率」は、施設の老朽化が更新投資を上回っているため、上昇傾向にあります。

一方、「管路の更新」については、これまで浄水施設等設備投資の比重が大きかったことや、耐震化のため主要な配水本管等を優先していることで、投資額に比べ延長が伸びず、「管路経年化率」は、類似団体平均値に比べて高くなっています。

これらにより、各施設は老朽化が進んでいるため、計画的な更新改良を進めます。

全体総括

枚方市では、給水人口が年々減少しています。また、節水型機器の普及や大口利用者の地下水転換が進み、有収水量、給水収益ともに減少傾向となっています。

令和3年度では、水道料金の制度見直しなどにより、給水収益が増加したこともあり、概ね健全経営を維持しています。

一方で、今後は、中宮浄水場をはじめ、老朽化した管路の更新に取り組みながら、これに対応するための経営基盤の強化に向けた取組も合わせて進めていく必要があります。

このことから、平成30年度に策定した「水道施設整備基本計画」と「経営戦略」に基づき、総括的計画に基づく料金制度の構築に向けた定期的な見直しをはじめとして、世代間負担の公平性の確保や持続を基本とした継続的な経営改善に向けた取り組みを進めていきます。